



ベニパール EX をご購入いただいたお客様へ

※製品到着後、直ちにほ場に放飼してください。放飼できない場合は10~25℃の冷暗所で保存し、必ず使用期限内に放飼してください。



規格：チチュウカイツヤコバチ 1250頭／250mL
その他成分：おがくず等



<適用表>

2025年11月現在

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	チユウカイ ツヤコバチを 含む農薬の 使用回数
野菜類 (施設栽培)	タバココナジラミ類 (シルバーリーフ コナジラミを含む)	500mL /10a (約2500頭)	発生 初期	—	放飼	—

使用期限：1日（10~25℃で保存した場合）

放飼方法

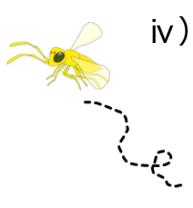
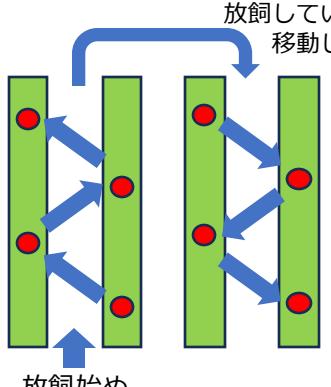
- i) ツヤコバチ（以下、天敵）は蓋に集まりやすいので、蓋の上面をたたき、おがくずに天敵を落としてボトルを横にしてゆっくり5回程度回転させて搅拌してください。
- ii) 中身の減り具合を確認できるように、ペンでボトル側面に何本か線を引きます。
- iii) 蓋を外し、一度に出ないように気を付けながらおがくずを振り出します。コナジラミが発生しやすい箇所を中心に、ほ場全体に均一になるように放飼してください。敵と敵の間を歩きながら10aあたり2本を50~60箇所を目安として放飼します。天敵の偏在を防ぐために条間を移動する際などは蓋を閉めボトルを横に回転させて再搅拌してから放飼してください。
- iv) 放飼後、容器には天敵が残っているので作物の陰に静置してください。



天敵は蓋に集まりやすいので上面を軽くたたいて、おがくず等を落としてから搅拌してください ボトル容量の半分くらい
おがくず等が充填されています



iii)



iv)

放飼後、容器に天敵が残っている
ので作物の陰に静置してください

<ベニパールEXに対する殺虫剤の影響目安>

農薬を使用する際には必ずラベルを確認し、正しくご使用ください。

農薬の種類	殺虫剤	蛹	成虫
ネオニコチノイド系	モビラン(水)	×	◎
	アルバリン/スタークル(水)	△	×
	アクタラ(水)	-	△
	アドマイヤ(水)	△	×
	ダントツ(水)	×	×
	バリード [®]	△	△
	ペストガード [®] (水)	△	×
合成ピレスロイド系	トレボン	◎	◎
	アディオン	○	○
有機リン系	オルラン(水)	○	-
	スミチオン	△	-
カーバメート系	ランネット	-	◎
I G R	アプロード [®]	◎	◎
	カスケード [®]	◎	◎
	トリガード [®]	◎	◎
	マッチ	◎	◎

農薬の種類	殺虫剤	蛹	成虫
物理的阻害	殺ダニ	サマイト	×
	タニトロン	-	○
	コマイト	○	○
	サンクリスタル	-	◎
	アファーム	△	×
	イオウフロアブル [®]	◎	-
	コテツ	○	×
その他	スピノエース	×	×
	ゼンタリー	◎	-
	チエス	◎	◎
	トルネード [®]	-	◎
	ハチハチ	×	×
	アフタード [®]	△	×
	イオウフロアブル [®]	○	×

天敵に対する影響の目安

◎：天敵放飼後に使用可能

○：天敵に若干影響あり

△：天敵に影響あり

×：天敵に強く影響・長期影響注意

※ 天敵は予防剤であり、効果的に使用するには、放飼前に害虫を徹底防除しておく必要があります。

商品到着前に害虫が散見される場合は上記の「◎」の薬剤で防除を行ってください。

※ 上記薬剤以外で、特に合成ピレスロイド系薬剤や有機リン系薬剤、カーバメート系薬剤、ネライストキシン系薬剤、ピラゾール系薬剤などは影響が大きく長期間影響が残るので、天敵の放飼前にこれらの薬剤を散布していた場合は天敵がうまく定着しないことがあります。

※ 気門封鎖剤はかかると天敵に影響がありますが、乾けば影響がないので放飼直前の防除に使用してください。

<ベニパールEX放飼後の殺菌剤について>

イオウフロアブル、サンボルドー、ドイツボルドー、モレスタンは天敵に影響がありますので利用は避けてください。硫黄のくん煙は1回当たり2~3時間以内で行なってください。

ベニパールEXと

相性の良い微生物農薬

コナジラミ類、アザミウマ類に感染する
昆虫寄生菌（カビの仲間）が有効成分



マイコタール[®]

規格：500g



ボタニガード[®]水和剤

規格：500g

根張りを促進して作物の健全な育成をサポート

トリコデソイル[®]

有用微生物入り土壤改良資材

規格：250g



育苗期

- 1000倍に希釈して使用。
- 育苗箱1箱あたり500~1000m^lまたは育苗床3l/m²を灌注施用。

本ぼ定植後

- 2000~4000倍を目安に希釈して、250g/10a (500 l ~ 1000 l) を灌注施用してください。
- 土壤消毒後の施用をお勧めです。土壤消毒により有用菌が減少するため、ガス抜き後なるべく早く施用してください。
- 定植直後の水やりの際に同時施用することもできます。
- 土耕栽培では3ヶ月毎、養液栽培では毎月の定期施用推奨。